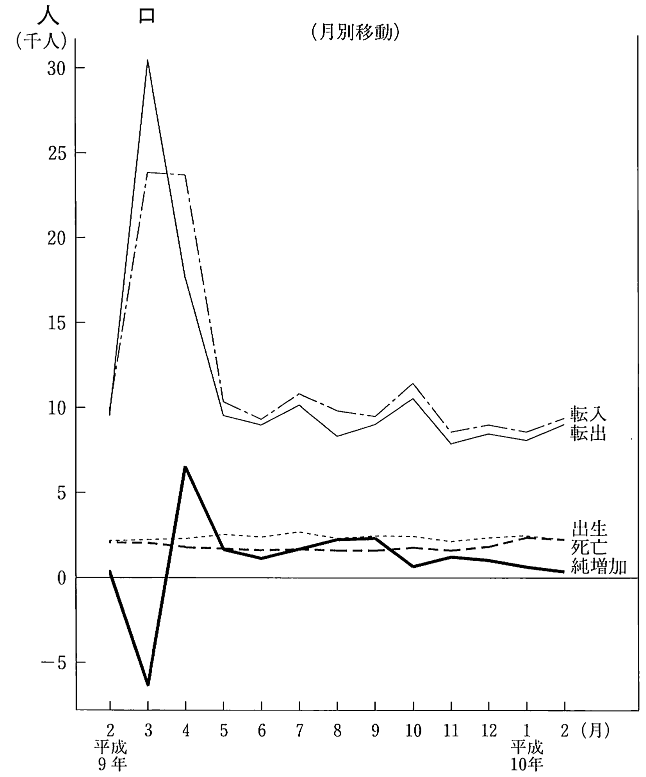
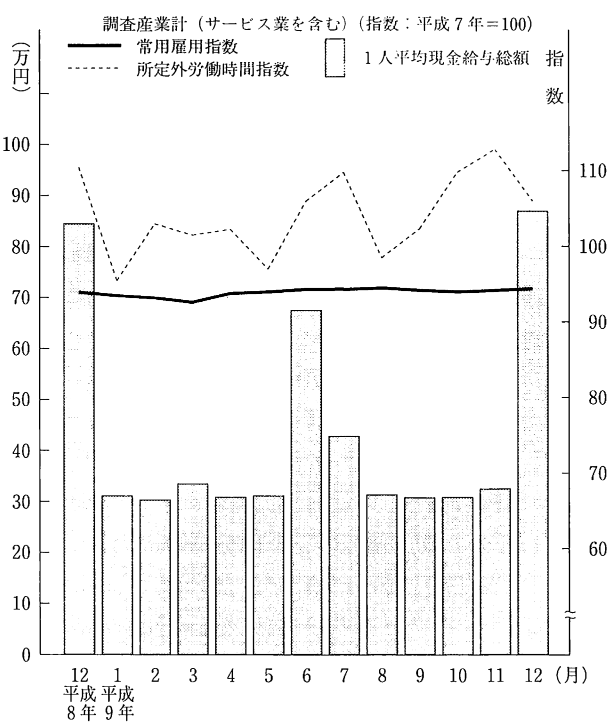
今月の主な動き





■人　口（10年3月1日）

2月の概況

本県の人口は，2月中に356人増加し，3月1日現在で2,986,352人（男1,491,146人，女1,495,206人）となった。

内訳は，自然動態で，5人（出生2,253人，死亡2,248人）増加し，社会動態で，351人（転入9,391人，転出9,040人）増加した。前年同月と比べると13,070人（0.4%）の増加である。

市町村別では，増加が7市34町村，減少が12市29町村，増減なしが1市2村である。

世帯数についても2月中に，586世帯増加し，959,954世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用（9年12月）

1．平均時間の推移

12月の現金給与総額は，調査産業計で869,237円，対前年同月比3.0%増，このうち，きまって支給する給与は305,695円，対前年同月比0.4%減であった。また，このうち，所定内給与は277,541円，対前年同月比0.2%減であり，超過労働給与は28,154円，対前年同月比2.2%減であった。

なお，物価上昇分を差し引いた実質賃金は，対前年同月比1.4%増であった。

2．労働時間

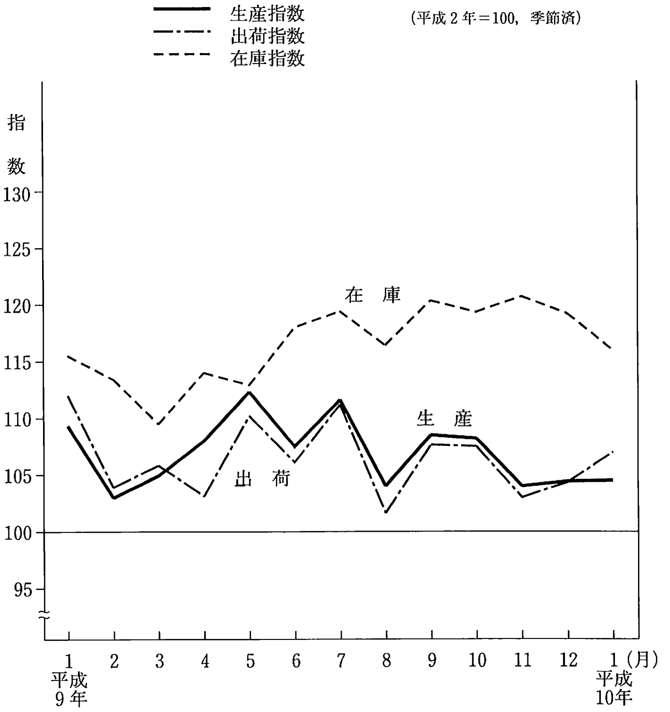
12月の総実労働時間は，調査産業計で157.7時間，対前年同月比3.6%減であった。このうち，所定内労働時間は143.6時間，対前年同月比3.4%減，所定外労働時間は14.1時間，対前年同月比4.1%減であった。

3．雇用の動き

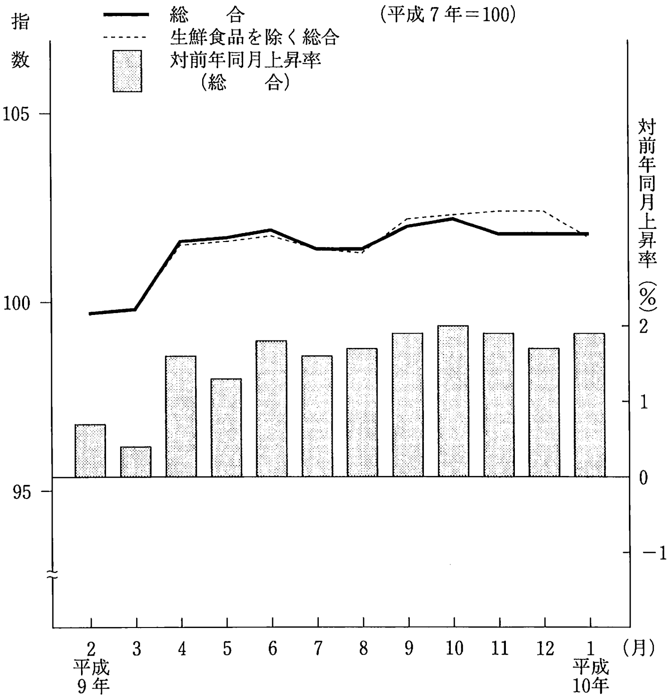
12月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると，対前年同月比0.5%増であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。
なお，事業所規模5人以上の結果についての問い合わせにも応じます。

鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



消費者物価指数



■鉱工業指数＜生産・出荷・在庫＞（10年１月）

本県における平成10年１月の“鉱工業指数”（平成２年＝100）は，季節調整済指数で，生産が104.5，出荷が107.0，在庫が116.0で，前月比は，生産が0.1％の上昇，出荷が2.6％の上昇，在庫が2.7％の低下であった。前年同月比（原指数）は，生産が4.4％の低下，出荷が4.5％の低下，在庫が0.4％の上昇であった。

業種別に前月比をみると，生産では，輸送機械工業，その他工業，繊維工業等が上昇し，非鉄金属工業，精密機械工業，石油・石炭製品工業等が低下した。出荷では，その他工業，食料品・たばこ工業，輸送機械工業等が上昇し，非鉄金属工業，石油・石炭製品工業，金属製品工業等が低下した。在庫では，精密機械工業，鉱業，輸送機械工業等が上昇し，食料品・たばこ工業，電気機械工業，プラスチック製品工業等が低下した。財別にみると，生産では，建設財，鉱工業用生産財が上昇し，その他用生産財，耐久消費財等が低下した。出荷では，非耐久消費財，建設財等が上昇し，その他用生産財，耐久消費財等が低下した。在庫では，耐久消費財，建設財が上昇し，非耐久消費財，その他用生産財等が低下した。

■消費者物価指数（10年１月）

平成10年１月の茨城県消費者物価指数（県平均）は，総合で101.8（平成７年＝100）となり，前月比もちあい，前年同月比1.9％の上昇となった。

今月の上がった主な項目‥‥果物17.6％，野菜・海藻14.3％，身の回り用品2.1％

今月の下がった主な項目‥‥衣料12.7％，シャツ・セーター・下着6.8％，乳卵類3.0％

生鮮食品を除く総合は101.7となり，前月比0.7％の下落，前年同月比1.9％の上昇であった。

■費目別指数

（平成７年＝100）

区分	指数	上昇率（％）		区分	指数	上昇率（％）	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	101.8	0.0	1.9	保健医療	113.0	0.2	10.9
食料	102.1	2.2	2.0	交通通信	99.0	0.3	0.3
住居	102.1	△0.1	0.1	教育	106.3	0.0	2.9
光熱・水道	104.5	△0.5	3.9	教養娯楽	100.0	△0.1	2.4
家具・家事用品	97.0	0.0	0.3	諸雑費	101.5	0.6	2.0
被服及び履物	101.2	△7.9	3.3	生鮮食品を除く総合	101.7	△0.7	1.9